



普通のがんは手術をすると全部切り取らないといけない。取り残すと、残ったがん細胞が暴れて増殖してしまう。しかし、甲状腺は喉にあつて、乳房といっしょで身体の中、内臓にはないからあまり他の臓器に悪さをしないんだ。だから進行が遅く、わりと生きられるんです。亡くなるのも200人にひとりくらい。そういう場合は、ゆっくり悪くなって、最後は肺に転移してしまう例ですね。肺に移してしまうと、普通は半年、1年、1年半でみんなだめになる。しかし、甲状腺がんは肺にきても6、7年は生きられるんです。それくらいゆっくりと進むがんなんです。あと、甲状腺がんは手術で全部、摘出しないんです。あえて少し残すんです」

——それはどうしてですか？ 大丈夫なんでしょうか

「すべて摘出してしまうとホルモンが出なくなってしまうから。甲状腺ホルモンというのは、不足するとおたまじゃくしがカエルにならないように、成長に大切なもの

なんです。あと、身体全体の新陳代謝と密接なつながりがあるから、欠かせない。だから、たとえがんになっても全部は摘出しない。わざと取り残しをします。そうすると普通のがんは残ったがん細胞が暴れ出すんだが、甲状腺は少し残してもあまり暴れない。でも



しばらくするとがん細胞は大きくなる。そうしたらまた手術で取ればいい。それを繰り返すことができるんです」

——なるほど。がんまではいってない甲状腺疾患は薬で治るといえるのは

「甲状腺のなかでホルモンの働き

が強くなるのがバセドウ病。これはメルカドールという、甲状腺の働きを抑える薬をちゃんと使えば4、5年で治ります。働きを抑えるからあまり良くはないが、これは効きます。SODと併用すればなおよし。そうすれば薬の副作用はなくなるから。がんや膠原病、難病なんかは薬を使ってもなかなか治らないけれど、バセドウ病は薬で治ります」

——最初の話に戻りますが、最近、その薬でも治らないというのはどうなんでしょう。

「うちでもどうしても治らないという患者さんは2、3年にひとりくらい来ますが、それもいろんなホルモン剤を調合して治しています。うちではまず治らないことがない」

◆丹羽先生診察ご希望の方は  
御紹介、御予約いたします。  
※自由診療となります。  
丹羽メディカル研究所  
☎0120(731)175  
もしくは

日本SOD研究会  
☎03(5787)3498

まで お電話ください。

——SODの効果は

「もちろんあります。薬とSODを飲んでいれば安心。SODは必ず飲むことです。甲状腺疾患はそんなに致命的な病気ではないから。ただ、甲状腺に異常がある人はものすごく多い。気づかない人もいるから、潜在的な人も含めるとむちゃくちゃ多い。女性で喉仏がやや目立つとか、目が出てきたら検査をしたほうがいい」

## SOD様作用食品 体験者の声を お聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区  
駒沢5-13-1-205

日本SOD研究会 藤沢宛

Tel 03-5787-3498

までご一報ください。

古くからヨーロッパでは医薬品として使われていたデビルズクローが丹羽メディカルからハーブサプリメントとして販売されます。このデビルズクローという聞きなれないハーブ、原産地は灼熱のアフリカのカラハリ砂漠地帯やナミビアの大草原に生育するゴマ科の植物です。アフリカやヨーロッパでは250年前から人気があったハーブです。その名の通り（悪魔の爪）の様な果実をつけることからデビルズクローと名がついたのです。しかし、名前とは逆にこの根茎部分には、人参・キャベツ・ホウレン草・小麦ふすまなどに含まれている植物ステロール（小腸内腔でコレステロールの吸収を阻害し、血漿コレステロール濃度を低下作用を示すことが知られてい

ます）が含まれています。

原産地のナミビアでは、リウマチ、腰痛、神経痛、糖尿病、半身麻痺、胃腸障害、肝臓、腎臓の病気にも使用されており、その他、血圧調整作用、老化予防・動脈硬化予防・アレルギー性疾患・更年期障害などにも応用されています。

民間薬的に、リウマチや関節炎

の治療に使われており、抗炎症作用や鎮痛作用が確認されています。関節痛に悩む人は、グルコサミンやコンドロイチンと一緒にデビルズクローを摂取すれば痛みを和らげながら、関節の軟骨を強化できるとして推進されています。

があるとされる成分)の1つであることが突き止められています。副作用がなく安全なため、コルチゾン(副腎皮質ホルモン)の一種で、糖質代謝促進作用をもつ)といったステロイドなどとの比較研究がドイツやフランスでは進展しつつあ

**関節痛、筋肉痛、  
糖尿病などに朗報！**



**奇跡のハーブ  
デビルズクロー  
登場!!**

デビルズクローは多年草の草本で、新芽は地上に沿って2メートルの高さまで伸びます。根は、広く分岐し、主根と側根からなり、この側根に高濃度の薬用成分が含まれています。その薬効の元が「ハルパゴシンド」というイリドイド類(抗腫瘍性が有るとされる成分)、イリドイド配糖体(血圧降下作用

るようです。品質の高いデビルズクローの生薬はこれらの化合物を2〜5%含んでいるもので、その成分の大部分がハルパゴシンドです。ヨーロッパの薬局ではこのハルパゴシンドを1.2%以上含むものをデビルズクローの生薬としています。デビルズクローは先にも紹介したように、古くからアフリカ、欧

米では生薬として様々な疾患に使用されてきましたが、最初の化学的研究は1958年にドイツで行われました。このとき初めて、デビルズクローの根の抽出物に抗炎症作用のあることが報告されました。そして1966年にESCO Pモノグラフ(ヨーロッパのハーブ療法の水準を統一するための機関)がデビルズクローを関節炎や腱炎の治療、消化不良や食欲不振に有効な優れた植物生薬として認可しています。さらに1977年にリウマチ研究の世界的権威であるCHRUBASIK医学博士が、デビルズクローを投与した患者51名と、通常の治療のみ(主に非ステロイド性の抗リウマチ薬と運動)をした患者51名の試験を行いました。その結果、両方に鎮痛効果が認められました。つまり、両方に効果があれば、副作用のない前者、デビルズクローを使用したほうが良いということになります。

◆使用量…成人(60kg)を基準に、

1日 30錠(1錠120mg)

1ヶ月に900錠(1瓶900錠入)

土佐清水病院草野球チーム、初の全国ベスト4に!!

フル先発!

77歳の丹羽先生は  
大会最年長現役選手

さて、今回は丹羽先生のレポート第2弾もお送りします。とはいえ、その内容は診療のことではありません。実は、丹羽先生は医療以外で唯一趣味として取り組んでいることがあります。それは、11年前に健康維持のために始めた野球です。最初のうちは健康維持を目的として病院スタッフとチー

ムを作ったのですが、チームを作れば試合をしたくなり、試合をすれば持ち前の負けず嫌いが頭をもたげてきます。勝ちたい、勝つためには、と考えをめぐらし、とうとう全国から甲子園経験者などを募り、5年前に正式に軟式野球連盟に登録。数々の大会で少しずつ



勝利を誘導した丹羽先生の絶妙なバント

そんななか、去年の11月、先生の喜寿のお祝いの席で、先生の口から土佐清水病院野球チームがとうとう全国大会に出場することが決まったという報告がもたらされたのです。しかも、全国大会に出場できるのは参加1098チームのなか、たったの8チームだけ。その決勝戦はなんと東京ドームで行われ、優勝チームはそのあとプロ野球OBチームとのドリームマッチも用意されていました。

確か、11月下旬に全国大会が行われたことは認識していたのですが、結果がどうだったのか確認していませんでした。そうしたら、12月に取材で大宮の診療所を訪ねましたら、スタッフの方から2種類のスポーツ新聞の切り抜きを渡されました。それは、全国大会を決めた中国四国大会で優勝した土佐清水病院の記事と満面の笑顔で胴上げをされている丹羽先生の写真でした。記事には大会最年長選手、80代まで現役という見出しが躍り、囲み記事で「活性炭素とその防御酵素であるSOD研究の世界的権威」という先生の医師としての経歴まで記されていました。

さらに、2枚目の記事は全国大会で1回戦を勝ち抜き、準々決勝まで駒を進めたけれど惜しくも破れ、ベスト4に終わった土佐清水病院チームの記事でした。

そうなんです、丹羽先生率いる土佐清水病院は全国ベスト4、つまり3位になったんです。おめでとうございます。

「ありがとうございます。'08年は中国四国大会の決勝で負けてあと一步のところで全国大会に出られなかったけど、'09年は全国大会の準々決勝まで行けたから、今年こそは優勝やね」

なにがすごいかって、先生はチームの一選手だということです。先生以外はみな20代、30代前半。孫の年齢の選手といっしょになって汗を流し、2番セカンドというレギュラーをはっているのです。もちろん控えの選手はみな先生より上手いはずなのですが、このレギュラーは変わりません。さすがにフル出場はしませんが監督いわく「丹羽先生が先発で出ることにこのチームの意味があるんです。先生は正面のゴロは完璧にさばきますし、打撃もミート力がありうまいです」

頭角を現していました。

私たちも先生が土佐清水にいるときは真夏の炎天下でも練習を欠かさない、さらに地方診療の折、雨が降っても深夜、ひとりでランニングを欠かさないという話は聞いていて、かなり本格的に取り組んでいることは知っていました。

# 来年は東京ドームで

## ■ 丹羽先生を胴上げだ！

土佐清水が今回、全国大会へと駒を進めた大会は、マルハンドリームカップといい、現在行われている草野球大会の中で、全国規模で行われる大会としては唯一のオープン形式の草野球全国大会です。

毎年春先から9月にかけて全国50の都道府県予選（一部地区を含む）を行い50代表を決定、10月初旬から11月初旬に、全国8地区で地区決勝大会を実施。見事勝ち抜いた地区代表8チームが全国大会決勝トーナメントに進出します。また優勝チームはプロ野球OBチームによるスペシャルマッチ「ドリームマッチ」も行います。

第1回は全国各地から821チーム、第2回は1021チームが参加しました。3回目の今回は1098チームが参加。中には、天皇賜杯全国大会の常連チームや、甲子園の常連校OBを中心としたチーム、社会人野球に在籍していた選手を中心とするチーム、大学のサークル、創部50年を越える老

舗のチームなどその顔ぶれも多彩です。

そのホームページに、今大会の最大のトピックスとして、丹羽先生の活躍が記事に取り上げられていました。オフィシャルライター、上原伸一さんが書かれたその記事をここに紹介します。

東京ドームまであと1勝と迫った準決勝で優勝した塩尻銘材野球クラブに敗れるも、土佐清水病院（中四国地区代表）もまた、好チームであった。

土佐清水病院が発足したのは99年。5年前に全日本軟式野球連盟に登録し、毎年、連盟主催の大会を中心に、年40試合ほど行っている。設立当初は、大敗の連続だったというが、近年は、社会人（サンワード貿易）05年限りで廃部）でもプレー経験がある大矢宏起投手や、近畿大工学部で大学選手権に出場した西田智人投手ら、実力派の加入もあり、高知県の強豪チームの仲間入り。全軟連の大会では、あと一歩で全国大会出場を逃していたが、今年のマルハンドリームカップで、高知予選、中四国大会

を勝ち抜き、念願の全国の舞台を踏んだ。

土佐清水病院（中四国地区代表）の精神的支柱が、チームを立ち上げた丹羽耕三さんだ。土佐清水病院の院長であり、京都大学の医学博士でもある丹羽さんは、昭和7年生まれ。今年77歳になるが、孫ほどに年が違う選手と混じって、はつらつとプレーしている。2対1で快勝した、準々決勝のふくお

かファイナンシャルグループとの試合でも、いつものように2番セカンドで先発出場。4回には、エラーを誘う絶妙な送りバントを決め、試合の流れを引き寄せる一翼も担った。

意気軒昂な丹羽さんは「まだまだだ、あと10年はプレーするつもりですよ」と言うが、それにしてもなぜ、還暦野球ならまだしも、77歳にして、一番体が動く20代30

かファイナンシャルグループとの試合でも、いつものように2番セカンドで先発出場。4回には、エラーを誘う絶妙な送りバントを決め、試合の流れを引き寄せる一翼も担った。

## Book 紹介

### メンタル・コーチング



「メンタル・コーチング」  
白井一幸  
(元日本ハムファイターズ  
ヘッドコーチ) 著  
PHP 研究所刊 1300円

SOD愛飲者でもある白井氏。プロ野球日本ハムファイターズ選手、後にヘッドコーチとして日本ハムを日本一に導いた氏がコーチングの本を出版しました。

本の中には「指示、命令、恫喝では選手の能力は発揮できない」を持論にした、メンタル面で選手のやる気を奮起させる方法が満載。

コーチというと、スポーツの世界ではテクニックの向上のための技術コーチを想像しがちですが、本を読むと、スポーツに限らずどの世界でも技術よりもメンタルが大切だということが分かります。

医療の世界でも、病は気からといいます。すなわちこの本は野球に限らず、ビジネスや教育の世界でも通用するコーチ論といえます。



# SOD様作用食品とは● 丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・デイスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力を握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや成人病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が



存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいため、内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。

開発した丹羽勲負（耕三）医学

博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。開発には実に二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治療力の偉大さを教えてくれました。病気は自分が治すもの。私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています」

先生は今も、土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場でがん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたっています。また、SODなどを始めとする論文は海外でも高い評価を得、日本のみならず海外の学会で講演をしたり、大病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送っています。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

## 丹羽療法を知る一冊

### ◆ブックガイド◆

「がん治療 究極の選択」

講談社

「丹羽SOD様作用食品摂取者の体験報告」日本SOD研究会

「丹羽博士の正しいアトピーの知識」廣済堂

「天然SOD製剤ががん治療に革命を起こす」廣済堂

「白血病の息子が教えてくれた 医者的心」草思社

「安心の医療・本当の健康」みき書房

「クスリで病気は治らない」みき書房

「医は仁術なり」至知出版

「丹羽療法全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由」リヨン社

「SOD様作用食品の効果」小冊子

